

接合部性能試験成績証

試験結果は以下のとおりであることを証明する。
 平成28年9月9日

東京都港区芝5-33-7
 徳栄ビル本館4階
 ハウスプラス確認検査株式会社
 代表取締役社長 川股 孝志

1. 接合金物名称	フラット筋かいプレート
2. 試験依頼者	株式会社 タナカ 〒300-4111 茨城県土浦市大畑702-1
3. 目的	当該接合金物を用いた筋かい壁(引張筋かいとして作用)の終局時変形角が1/30rad以上であることを確認すると共に、短期基準せん断耐力から、筋かい端部接合部が負担する耐力を評価する。
4. 試験内容	筋かい断面寸法30mm×90mm筋かい壁の面内せん断試験(柱脚固定式) なお、準拠する試験方法・評価方法は、ハウスプラス確認検査株式会社制定「木造建築構造試験事業における接合部性能試験業務方法書(平成21年4月1日制定)」による。
5. 試験体仕様	<p>1) 試験体の寸法 横架材間の内法寸法:2,587.5mm 柱間隔(芯々間):910mm</p> <p>2) 接合金物 「フラット筋かいプレート」 材 質: 降伏点560N/mm²以上、引張強さ570N/mm²以上の鋼材*1 寸 法: 155.5mm×150mm(外形) 板厚t=0.6mm 留付け用孔 14-φ5.9mm エンボス加工 表面処理: Z27相当*2</p> <p>3) 接合具 柱側: 「木ねじ TBA-45」 8本 材 質: 以下の化学成分を満足する炭素鋼 C:0.18~0.23%, Mn:0.70~1.00%, P:0.030%以下, S:0.050%以下 寸 法: 公称径φ5.3mm L=43mm 表面処理: エコートWH処理*3 筋かい側: 「木ねじ TBA-45」 5本 材 質: 以下の化学成分を満足する炭素鋼 C:0.18~0.23%, Mn:0.70~1.00%, P:0.030%以下, S:0.050%以下 寸 法: 公称径φ5.3mm L=43mm 表面処理: エコートWH処理*3</p> <p>4) 軸組材料 梁: 105mm×180mm ベイマツ無等級製材 含水率:12.5% 全乾密度:0.45~0.49g/cm³ 土台: 105mm×105mm スギ無等級製材 含水率:11.0~13.0% 全乾密度:0.40~0.45g/cm³ 柱: 105mm×105mm×2,587.5mm(胴付き間) スギ無等級製材 2本 含水率:10.5~14.5% 全乾密度:0.40~0.44g/cm³</p> <p>5) その他 筋かい: 30mm×90mm ツガ無等級製材 含水率:12.0~12.5% 全乾密度:0.51~0.55g/cm³ 間柱: 30mm×105mm×2,587.5mm スギ無等級製材 含水率:11.5~13.0% 全乾密度:0.35~0.37g/cm³</p> <p>*1 試験では、新日鐵住金製NSDC570「スーパーダイマ®」を用いた *2 合金めっき鋼板以外の鋼材を用いる場合 *3 JIS H 8610 2種2級Ep-Fe/Zn5/CM2以上の防錆処理を施したものの</p>
6. 試験条件等	接合金物は用途に合わせ柱に取り付け仕様としている。試験体の柱頭の接合に羽子板ボルトSB・E2を用い、柱脚の接合に引き寄せ金物S-HD15を用いた。
7. 試験結果	軸組の影響を考慮した短期基準せん断耐力 3.25 kN(引張側、1mあたり) ≥ 1.96kN 筋かい壁の終局変形角(3体の最小値) 46.48×10^{-3} rad(1/21.5rad) > 33.33×10^{-3} rad(1/30rad) (詳細は接合部性能試験報告書HP16-KT502に示す)
8. 試験場所	ハウスプラス確認検査株式会社 横浜試験研究センター: 神奈川県横浜市鶴見区元宮1-12-24
9. 試験実施日	平成28年7月26日、8月25日
10. 試験実施担当者	ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 家納 吾郎 道場 信義 千葉 博 宇山 善博

この接合部性能試験成績証を転載するときは、必ず全文を記載してください。